



2026年度 東京医科大

【 講評 】

例年通り、大問4題がマーク形式で出題された。第1問の小問集合は昨年同様に解きやすい問題が多く、その他の大問も難しいものはなかった。一方、2020年以降毎年出題されていた場合の数・確率が出題されなかった点と、第4問の(4)で記述問題が出題された点は目新しかった（2020年以降、記述問題の出題はなかった）。1次通過のためには全体で75%以上は得点したい。以下、大問ごとに特徴を述べる。

第1問 小問集合【やや易】

(1)は三角関数（余角公式）、(2)は三角関数（最大・最小）、(3)は数列（等差数列）、(4)は数Ⅲ積分法（体積）で、いずれも典型問題である。計算量も少ないので、確実に得点したい。

第2問 図形と方程式（軌跡、円と直線）／式と証明（相加・相乗平均の不等式）【標準】

前半は軌跡を求める問題で、典型的な問題である。問題文に除外点があることも述べられているため、非常にときやすい。(2)は2変数関数の値域を円と直線の共有点考察を利用して求める問題で、これも典型問題である。(3)は(2)が利用できることに気づければ、相加・相乗の利用に容易に気づけるだろう。完答したい問題である。

第3問 ベクトル（空間座標）【標準】

(1)は平面の法線ベクトルを求める問題、(2)は(1)の法線ベクトルを利用して、球面と平面の交わりの円の中心と半径を求める問題で、ここまで落とせない。(3)は類題を解いた経験がない人は解きづらく感じたかもしれない。差がつきそうな問題である（本年の日本医科大でも出題されていた）。

第4問 数Ⅲ積分法（回転体の体積、定積分と不等式）【標準】

(1)はグラフの共有点、(2)は面積、(3)は x 軸回転体の体積と、いずれも簡単な問題であるため確実に得点したい。(4)は難しく感じた人も多いかもしれないが、 $y = \sin x$ の対称性と、(1)のグラフの上下関係を用いることに気づいた人は容易に解けたであろう。

お問い合わせは 0120-302-872

<https://keishu-kai.com/>

【 解 答 】

第1問 (1) ア:9, イ:0 (2) ウ:5, エ:1, オ:1, ハ:5,
(3) キ:5, ク:3, ケ:2, コ:3, (4) サ:5, シ:6, ス:1, セ:5

第2問 (1) ア:2, イ:1, ウ:1, エ:2, オ:0, (2) ハ:0, キ:8, ク:5,
(3) ケ:2, コ:1, サ:8, シ:5,

第3問 (1) ア:2, イ:3, (2) ウ:1, エ:2, オ:1, ハ:3, キ:2, ク:2, ケ:2,
(3) コ:1, サ:4, シ:2, ス:7

第4問 (1) ア:0, イ:1, ウ:2, (2) エ:1, オ:1, ハ:4 (3) キ:1, ク:1, ケ:2, コ:2
(4) 解説参照

【解説】

1

$$(1) \sin(\theta + 90^\circ) = \cos\theta \text{ より } \sin^2(\theta + 90^\circ) = \cos^2\theta$$

これを用いると

$$\begin{aligned} & \sin^2 0^\circ + \sin^2 1^\circ + \sin^2 2^\circ + \cdots + \sin^2 90^\circ + \sin^2(1^\circ + 90^\circ) + \sin^2(2^\circ + 90^\circ) + \cdots + \sin^2(90^\circ + 90^\circ) \\ &= \sin^2 0^\circ + \sin^2 1^\circ + \sin^2 2^\circ + \cdots + \sin^2 90^\circ + \cos^2 1^\circ + \cos^2 2^\circ + \cdots + \cos^2 90^\circ \\ &= 0 + (\sin^2 1^\circ + \cos^2 1^\circ) + (\sin^2 2^\circ + \cos^2 2^\circ) + \cdots + (\sin^2 90^\circ + \cos^2 90^\circ) \\ &= 90 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (2) \quad f(x) &= 3(2\cos^2 x - 1) + (1 - \cos^2 x) - 2\cos x \\ &= 5\cos^2 x - 2\cos x - 2 \\ &= 5\left(\cos x - \frac{1}{5}\right)^2 - \frac{11}{5} \end{aligned}$$

$-1 \leq \cos x \leq 1$ であるから,

$$\cos x = \frac{1}{5} \text{ のとき 最小値 } -\frac{11}{5},$$

$$\cos x = -1 \text{ のとき 最大値 } 5$$

をとる。

$$(3) \quad S_{100} - 2S_{101} + S_{102} = 5 \text{ より } S_{102} - S_{101} - (S_{101} - S_{100}) = 5$$

$$S_{102} - S_{101} = a_{102}, \quad S_{101} - S_{100} = a_{101} \text{ であるから } a_{102} - a_{101} = 5$$

よって、数列 $\{a_n\}$ の公差は 5 である。

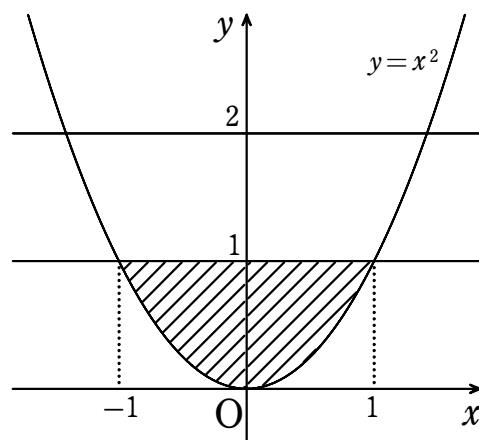
また、数列 $\{a_n\}$ の一般項は $a_n = a_{140} + 5(n - 140) = 1111 + 5(n - 140) = 5n + 411$

$$a_n = 2026 \text{ のとき } 5n + 411 = 2026 \quad \therefore n = 323$$

(4) 求める体積は、右図の斜線部分を $y=2$ の周りに回転させて得られる立体の体積であるから、 y 軸に関する対称性に注意すると、

$$\begin{aligned} \frac{V}{2} &= \int_0^1 \pi[(2 - x^2)^2 - 1^2] dx \\ &= \pi \int_0^1 (x^4 - 4x^2 + 3) dx \\ &= \pi \left[\frac{1}{5}x^5 - \frac{4}{3}x^3 + 3x \right]_0^1 \\ &= \frac{28}{15}\pi \end{aligned}$$

$$\text{よって, } V = \frac{56}{15}\pi$$



2

$$(1) P(s, t) \text{ とおくと, } s^2 + (t-3)^2 = 9 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$\triangle PAB$ の重心 $G(a, b)$ は、3点 P, A, B が同一直線上にあるとき存在しないから

$$t \neq 0 \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

このとき、

$$a = \frac{s+1+5}{3} = \frac{1}{3}(s+6) \Leftrightarrow s = 3a - 6$$

$$b = \frac{t+0+0}{3} = \frac{t}{3} \Leftrightarrow t = 3b$$

これらを $\textcircled{1}$ に代入すると

$$(3a-6)^2 + (3b-3)^2 = 9$$

$$9(a-2)^2 + 9(b-1)^2 = 9 \quad \therefore (a-2)^2 + (b-1)^2 = 1 \quad \dots\dots \textcircled{3}$$

$\textcircled{2}$ と $t = 3b$ より $b \neq 0$

これと $\textcircled{3}$ より $a \neq 2$

よって、重心 G の軌跡 C' は、中心 $(2, 1)$ 、半径 1 の円から、点 $(2, 0)$ を除いた図形である。

$$(2) \frac{3b}{a+2} = k \text{ とおくと } b = \frac{k}{3}(a+2) \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

これは ab 平面上において、 $(-2, 0)$ を通る傾き $\frac{k}{3}$ の直線を表す。

これが $\textcircled{1}$ で求めた ab 平面上の円

$$(a-2)^2 + (b-1)^2 = 1 \quad \dots\dots \textcircled{2}, \quad (a, b) \neq (2, 0)$$

と共有点をもつときの、 k のとり得る値の範囲が求めるものである。

$$\text{直線 } \textcircled{1} \text{ と円 } \textcircled{2} \text{ が共有点をもつのは } \frac{|2k-3+2k|}{\sqrt{k^2+9}} \leq 1 \quad \therefore |4k-3| \leq \sqrt{k^2+9}$$

両辺正であるから、2乗して整理すると

$$16k^2 - 24k + 9 \leq k^2 + 9$$

$$k(5k-8) \leq 0 \quad \therefore 0 \leq k \leq \frac{8}{5}$$

ただし、 $k=0$ のとき $\textcircled{1}$ より $b=0$ となり、 $(a, b) \neq (2, 0)$ を満たさない。

したがって、 $k = \frac{3b}{a+2}$ のとり得る値の範囲は $0 < k \leq \frac{8}{5}$

$$(3) (2) の $k = \frac{3b}{a+2}$ を用いると $\frac{(3b)^2 + (a+2)^2}{3b(a+2)} = \frac{\left(\frac{3b}{a+2}\right)^2 + 1}{\frac{3b}{a+2}} = \frac{k^2 + 1}{k} = k + \frac{1}{k}$$$

(2) より $0 < k \leq \frac{8}{5}$ であるから、相加・相乗平均の不等式により

$$k + \frac{1}{k} \geq 2 \sqrt{k \cdot \frac{1}{k}} = 2$$

等号が成立するのは $k = \frac{1}{k}$ かつ $0 < k \leq \frac{8}{5} \Leftrightarrow k = 1$

よって、 $\frac{(3b)^2 + (a+2)^2}{3b(a+2)}$ の最小値は 2

また、最小値をとるとき $k = \frac{3b}{a+2} = 1 \quad \therefore a = 3b - 2$

これを ② に代入すると $(3b-4)^2 + (b-1)^2 = 1$

$$5b^2 - 13b + 8 = 0$$

$$(5b-8)(b-1) = 0 \quad \therefore b = 1, \frac{8}{5}$$

3

(1) $\vec{n} = (1, y, z)$ とおく。

$$\overrightarrow{AB} = \left(-7, \frac{7}{2}, 0 \right) = -7(2, -1, 0), \quad \overrightarrow{AC} = \left(-7, 0, \frac{7}{3} \right) = -\frac{7}{3}(3, 0, -1)$$

$$\overrightarrow{AB} \perp \vec{n} \text{ より } -\frac{1}{7}\overrightarrow{AB} \cdot \vec{n} = 0 \text{ であるから } 2 - y = 0 \quad \therefore y = 2$$

$$\overrightarrow{AC} \perp \vec{n} \text{ より } -\frac{3}{7}\overrightarrow{AC} \cdot \vec{n} = 0 \text{ であるから } 3 - z = 0 \quad \therefore z = 3$$

$$\text{よって, } \vec{n} = (1, 2, 3)$$

(3) 平面 α は $A(7, 0, 0)$ を通り \vec{n} に垂直であるから、その方程式は

$$1 \cdot (x - 7) + 2 \cdot (y - 0) + 3 \cdot (z - 0) = 0 \quad \therefore x + 2y + 3z - 7 = 0 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

 $\overrightarrow{OP} \parallel \vec{n}$ であるから、ある実数 k が存在して

$$\overrightarrow{OP} = k\vec{n} = (k, 2k, 3k)$$

と表せる。

$$\text{点 } P \text{ は平面 } \alpha \text{ 上の点で, } \textcircled{1} \text{ を満たすから } k + 2 \cdot 2k + 3 \cdot 3k - 7 = 0 \quad \therefore k = \frac{1}{2}$$

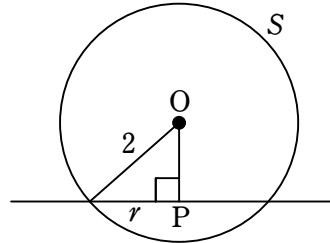
$$\text{よって, } \overrightarrow{OP} = \left(\frac{1}{2}, 1, \frac{3}{2} \right) \quad \therefore P \left(\frac{1}{2}, 1, \frac{3}{2} \right)$$

また、 $|\vec{n}| = \sqrt{1+4+9} = \sqrt{14}$ であるから、

$$|\overrightarrow{OP}| = \left| \frac{1}{2} \vec{n} \right| = \frac{\sqrt{14}}{2}$$

円 C の半径を r とすると、三平方の定理より

$$r = \sqrt{2^2 - |\overrightarrow{OP}|^2} = \sqrt{4 - \frac{14}{4}} = \frac{\sqrt{2}}{2}$$

D から平面 α へ垂線 DH を下ろすと $|\overrightarrow{DQ}|^2 = |\overrightarrow{DH}|^2 + |\overrightarrow{HQ}|^2$ $\overrightarrow{DH} \parallel \vec{n}$ であるから、ある実数 l が存在して

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OH} &= \overrightarrow{OD} + l\vec{n} = (1, 1, 1) + l(1, 2, 3) \\ &= (l+1, 2l+1, 3l+1) \end{aligned}$$

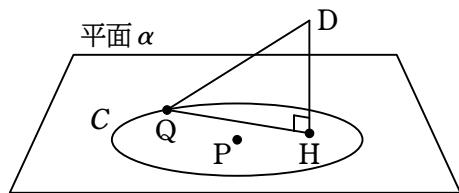
と表せる。

点 H は平面 α 上の点で、 $\textcircled{1}$ を満たすから

$$l+1 + 2(2l+1) + 3(3l+1) - 7 = 0 \quad \therefore l = \frac{1}{14}$$

よって、 $\overrightarrow{OH} = \left(\frac{15}{14}, \frac{8}{7}, \frac{17}{14} \right)$ であるから、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{PH} &= \overrightarrow{OH} - \overrightarrow{OP} = \left(\frac{15}{14}, \frac{8}{7}, \frac{17}{14} \right) - \left(\frac{1}{2}, 1, \frac{3}{2} \right) \\ &= \left(\frac{4}{7}, \frac{1}{7}, -\frac{2}{7} \right) = \frac{1}{7}(4, 1, -2) \end{aligned}$$



したがって、

$$|\overrightarrow{PH}| = \frac{1}{7} \sqrt{16+1+4} = \frac{\sqrt{21}}{7} < \frac{\sqrt{2}}{2}$$

であるから、点 H は円 C の内部の点である。

$$|\overrightarrow{DH}| = \left| \frac{1}{14} \vec{n} \right| = \frac{\sqrt{14}}{14} \text{ であるから, } |\overrightarrow{DQ}|^2 = |\overrightarrow{DH}|^2 + |\overrightarrow{HQ}|^2 = |\overrightarrow{HQ}|^2 + \frac{1}{14}$$

よって、 $|\overrightarrow{DQ}|$ が最小となるのは $|\overrightarrow{HQ}|$ が最小となるときで、

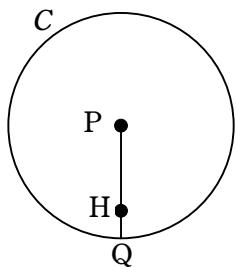
これは P, H, Q がこの順で一直線上に並ぶときである。

このとき、

$$|\overrightarrow{HQ}| = |\overrightarrow{PQ}| - |\overrightarrow{PH}| = \frac{\sqrt{2}}{2} - \frac{\sqrt{21}}{7} = \frac{7\sqrt{2} - 2\sqrt{21}}{14}$$

したがって、 $|\overrightarrow{DQ}|^2$ の最小値は

$$\begin{aligned} \left(\frac{7\sqrt{2} - 2\sqrt{21}}{14} \right)^2 + \frac{1}{14} &= \frac{98 - 28\sqrt{42} + 82 + 14}{14^2} = \frac{196 - 28\sqrt{42}}{14^2} \\ &= 1 - \frac{\sqrt{42}}{7} \end{aligned}$$



[別解](1) \vec{n} は外積から求めてもよい。

$$\overrightarrow{AB} = \left(-7, \frac{7}{2}, 0 \right) = -7(2, -1, 0), \quad \overrightarrow{AC} = \left(-7, 0, \frac{7}{3} \right) = -\frac{7}{3}(3, 0, -1) \text{ であるから,}$$

$$-\frac{1}{7} \overrightarrow{AB} \times \left(-\frac{3}{7} \overrightarrow{AC} \right) = (1-0, -(-2-0), 2-0) = (1, 2, 3)$$

$$\text{よって } \vec{n} = (1, 2, 3)$$

[別解](1) 点 P は正射影ベクトルを用いると容易に求まる。

$$\overrightarrow{OA} = (7, 0, 0), \quad \vec{n} = (1, 2, 3) \text{ より}$$

$$\vec{n} \cdot \overrightarrow{OA} = 7 + 0 + 0 = 7, \quad |\vec{n}|^2 = 1 + 4 + 9 = 14$$

\overrightarrow{OP} は \overrightarrow{OA} の \vec{n} への正射影ベクトルであるから

$$\overrightarrow{OP} = \frac{\vec{n} \cdot \overrightarrow{OA}}{|\vec{n}|^2} \vec{n} = \frac{7}{14} (1, 2, 3) = \left(\frac{1}{2}, 1, \frac{3}{2} \right)$$

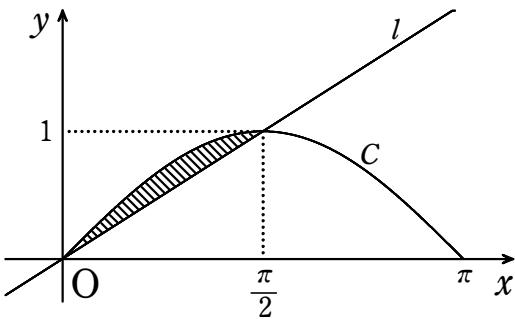
$$\therefore P \left(\frac{1}{2}, 1, \frac{3}{2} \right)$$

4

(1) 曲線 C と直線 l を図示すると、右の図のようになる。

よって、これらの共有点の x 座標は $x=0, \frac{1}{2}\pi$

また、 D は図の斜線部分である。



(2) 求める面積をとすると、

$$\begin{aligned} S &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin x \, dx - \frac{1}{2} \cdot \frac{\pi}{2} \cdot 1 = \left[-\cos x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} - \frac{\pi}{4} \\ &= 1 - \frac{1}{4}\pi \end{aligned}$$

(3) 求める体積を V とすると、

$$\begin{aligned} V &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \pi \sin^2 x \, dx - \frac{1}{3} \times \pi \cdot 1^2 \times \frac{\pi}{2} = \frac{\pi}{2} \int_0^{\frac{\pi}{2}} (1 - \cos 2x) \, dx - \frac{\pi^2}{6} \\ &= \frac{\pi}{2} \left[x - \frac{1}{2} \sin 2x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} - \frac{\pi^2}{6} = \frac{\pi^2}{4} - \frac{\pi^2}{6} \\ &= \frac{1}{12}\pi^2 \end{aligned}$$

$$(4) \int_0^{\pi} e^{\sin x} \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{\sin x} \, dx + \int_{\frac{\pi}{2}}^{\pi} e^{\sin x} \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{\sin x} \, dx + \int_{\frac{\pi}{2}}^{\pi} e^{\sin(\pi-x)} \, dx$$

$$\int_{\frac{\pi}{2}}^{\pi} e^{\sin x} \, dx = \int_{\frac{\pi}{2}}^{\pi} e^{\sin(\pi-x)} \, dx \text{において } t = \pi - x \text{ とおくと } dx = -dt,$$

x	$\frac{\pi}{2}$	\rightarrow	π
t	$\frac{\pi}{2}$	\rightarrow	0

$$\text{よって } \int_{\frac{\pi}{2}}^{\pi} e^{\sin(\pi-x)} \, dx = \int_{\frac{\pi}{2}}^0 e^{\sin t} \cdot (-1) \, dt = \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{\sin t} \, dt$$

$$\text{したがって } \int_0^{\pi} e^{\sin x} \, dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{\sin x} \, dx + \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{\sin x} \, dx = 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{\sin x} \, dx \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$$(1) \text{ のグラフより}, \quad 0 \leq x \leq \frac{\pi}{2} \text{ のとき } \frac{2}{\pi}x \leq \sin x \quad \therefore \quad e^{\frac{2}{\pi}x} \leq e^{\sin x}$$

両辺を $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ で定積分すると、等号は常には成り立たないから

$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{\sin x} \, dx > \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{\frac{2}{\pi}x} \, dx = \left[\frac{\pi}{2} e^{\frac{2}{\pi}x} \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{\pi}{2}(e-1) \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ より } \int_0^{\pi} e^{\sin x} \, dx = 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{\sin x} \, dx > 2 \cdot \frac{\pi}{2}(e-1) = \pi(e-1)$$

$$\therefore \int_0^{\pi} e^{\sin x} \, dx > \pi(e-1) \quad (\text{証明終})$$